

ルカの福音書 第9章 51～52節

「さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐむけられ、ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリヤ人の町に入り、イエスのために準備した。」

イエスにとってエルサレムは憩いの都ではなかった。オリーブ山から都を臨んで嘆き、涙するところであった。都の城壁の外で十字架に上げられた。その都へと第一歩を踏み出すときが来た。嘆き、痛み、そしていのちを奪おうとする者たちがたむろする都への第一歩である。不穏な都、闇に沈む都へと御顔が向く。この都に背を向けない。この都から眼差しを背けない。御顔をまっすぐ向ける。そして使いを出す。

都の闇の濁流に押し流されることなく、御顔をまっすぐむける。進む途中には都と敵対関係にある町、サマリヤがある。いずれの町の民にも拒否されるなかをひたすら突き進む。天に上げられる日が近づいているからである。町に拒否され、人々に憎まれ、蔑まれ、打たれ、十字架に上げられる。

それなのに、御顔をまっすぐエルサレムに向け、厳しい道を進む。闇の世にひかりを、死の都にいのちを、絶望の民に希望を照らすために、地の底にくだり、天に上るために。

2022年5月13日